講演会報告

英国でのサバティカルに関する報告

－パフォーミング・アーツの多様性と可能性－

和光　理奈

The Report of Sabbatical in the UK

– Diversity and Possibility of Performing Arts –

Rina WAKO

１．概要

2018年4月1日より1年間、イギリスでダンス教育の実態を調査し、そこから得られる知見を用いて実際に現地でのワークショップを試みた。この期間での調査内容と実践したダンスのアウトリーチ活動について報告する。

２．滞在研究機関 The Place（写真１、２）

英国ロンドンの中心部に位置するダンスセンター。The Placeは1969年にRobin Howardによって設立され、現在までイギリスはもとよりヨーロッパのコンテンポラリー･ダンス･シーンを牽引する役割を果たしている。対象者はアマチュアからプロフェショナルまで、また子どもから成人までヨーロッパ圏のみならず、ワールドワイドにダンスを愛する人達のパワーハウスとして機能している。施設には、客席数が約300のRobin Howard　Dance Theatreとチケットオフィス、バーカウンター、11のスタジオ、コンディショニング・ルーム、レクチャー・ルーム、男女別更衣室やトイレ、シャワー、講師用更衣室やトイレ、シャワー、映像編集部屋、衣装制作部屋、カフェ、図書室、各事務室などが備わっ

（写真１）The Place 劇場側

（写真２）The Place スタジオ側

ている。

またThe Placeは、以下の5つの部門からなるダンス総合機関である。

（1）London Contemporary Dance School

卒業・修了後には、University of Kentから学位が与えられる。

（2）Richard Alston Dance Company

The Placeに拠点を置き、パフォーマンス活動のほかにアウトリーチ・プロジェクトとして地方の学校や諸団体を対象にワークショップなども行う。

（3）Theatre and Artist Development

パフォーミング・アーツに関わる専門家に対してのサポートを主に行っている。

（4）Recreational and Prevocational Dance

生涯教育という視点で子どもから成人までを対象に様々な機会を提供する。

（5）Creative Teaching and Learning

ダンス学習教材の開発とChanging Lives及びQOLの向上を目指したプログラムを提供する。

今回の調査・研究で特に注目したのは、上記の（4）と（5）である。

（4）で展開するプログラムの中の1つは「CAT（Center for Advanced Training）」であり、これはイギリス政府の教育部門の助成による10-18歳の子ども達を対象としたダンサー育成を支援するプログラムである。

内容は、コンテンポラリー・ダンス、クラシック・バレエ等のダンス・テクニックに加え、パフォーマンス・スタディ、骨格のチェックやボディ・コンディショニング、トレーニングの個別指導、観劇である。ここで育った多くの修了生が著名なダンス・スクールへと進学し、プロフェッショナルの道へと進んでいる。また「CAT」の授業料は保護者の所得によっては援助を受けられるシステムが導入されており、これにより広く低所得者層の子ども達もダンスの専門的トレーニングを受けることが出来るようになった。この機会を得るためにはオーディションへの参加と面接が義務付けられている。筆者も実際の面接の場に同席する機会を得たため、一部の参加者の意見や保護者の考え方に触れることが出来た。多くの参加者がすでにダンス経験を持ち、ダンスに対する積極的な姿勢が見られたが、参加者の中にはダンス経験はなく、この先どのような芸術・スポーツに取り組めばよいか模索をしているため、まずはこの「CAT」プラグラムに参加してみたいという保護者の意見もあった。

また専門的にダンスを学ぶところまでは行かなくとも、もう少し気軽な稽古ごと感覚でダンスに触れたいという子ども達のためには、9-14歳を対象とする「Shuffle dance company」や、14-19歳を対象とする「Shift dance company」も存在する。また男子のみのダンスクラスとして、7-10歳男子対象の「Energiser」や、11-16歳男子対象の「Fuel」の2クラスも用意されている。“ダンスは女子がするもの”という固定概念はヨーロッパでは日本よりも小さいが、ダンスを学ぶ人口はやはり女子の方が多いため、クラスの中で男子が気後れしないよう男子クラスを設け、同性の中で伸び伸びとダンスを学ぶことが出来るように配慮されている。このような「CAT」「Shuffle dance company」「Shift dance company」「Energiser」「Fuel」の他にも、毎週土曜日には、5歳から16歳まで年齢別にダンスクラスが設けられており、これらのプログラムに参加することは、成長の早い段階でダンスをアートとして学ぶ機会が増えることになる。すなわち、このようなダンス・プログラムへの参加人口が増えることは英国の若年層のダンスに関する身体的・意識的レベルが上がると考えられる。

また、Recreational and Prevocational Danceが提供する成人向けのプログラムでは、「Classes and Courses」というイブニング・クラスが毎晩数多く展開されている。

グラハム、カニングハム、リモン、リリースなどの様々なスタイルのコンテンポラリー・ダンスやクラシック・バレエ、ピラティス、コンタクト・インプロバイゼーション、ジャズ・ダンス、ヒップホップ・ダンス、パフォーマンス・プロジェクト、障害者や障害者と共にダンスを学びたい人のためのクラスなど、参加者がレベルや

興味･関心に合わせて選択が可能になっている。クラスでは厳しく選抜された高いレベルな講師陣に加え、経験豊富なミュージシャンによるライブ演奏付きのレッスン内容をフレンドリーな雰囲気の中で楽しめるようになっている。特にヨーロッパ社会ではプライベートや余暇を自分自身のために楽しむ国民性があるため、仕事帰りに積極的にダンス・クラスに参加する人が多い。年齢や性別、あらゆる身体的条件を誰もが気に留めることなく、自由にクラスを楽しみ、しかも向上心を持って継続的に学ぶ姿は日本ではあまり見られない光景である。

特筆すべきは2018年6月に実施された「CAT」「Shift dance company」と障害者を含むダンスチームが参加した「East Wall」のパフォーマンス・プロジェクトである。これは構想に4年をかけ、The Place以外のダンス研究機関やプロフェッショナルのダンス・カンパニーとの連携を取りながら、最終的にはロンドン塔前の特設ステージで実施されたプロジェクトであり、そのパフォーマンスは圧巻であった。各団体には毎週プロフェッショナルの振付家やダンサーが指導に当たり、約3か月の練習を経て本番に臨むものであった。(写真資料3、4)

(5) のCreative Teaching and Learning部門では、ダンス学習教材の開発として「Dance Quest」が挙げられる。このプロジェクトはチャールズ皇太子が主催するThe Prince's Foundation for Children & the Artsの支援を受け、ロンドンをはじめとするイギリスの4都市に位置する劇場が地元の学校と連携して11歳から13歳までの子ども達にダンスをアートとして楽しむ機会を提供

（写真３）EAST WALL の宣伝サイト

（写真４）パフォーマンスの様子

するものである。The Placeではこのプロジェクトの一環として、小中学校の義務教育課程に従事する体育教員のための「Dance Quest Book for Teachers」という教本を発行した。内容はウォーミング・アップから動きの創作のヒント、作品を分析評価する時のアドバイスなど、ダンス未経験の教師でもクリエイティブ・ダンスのクラスが指導できるように分かりやすく書かれている。このテキストはダウンロードが可能となっている。

内外研究中には、実際に小中学校の教師向けの講習会に参加する機会を得た。ここでは男女合わせた約20名の教師が1日を通して、どのようにダンス授業を展開すれば子ども達にとって有益な時間となるかを講義、実践と討論を交えながら学ぶ様子から、ロンドン周辺の学校教師が不安を抱えながらも積極的にダンス授業に取り組む様子も伺うことが出来た。

またロンドン市内の小学校へアーティストを派遣し、現地の教員に代わってダンスの授業を展開するプロジェクトを見学する機会もあった。これはイギリス内のアート・カウンシルの支援を受けて展開された9つのCreative projectであり、そのうちの１つを見学した。見学したプロジェクトは、The Placeとパートナーシップを結ぶNetley Primary Schoolで展開されており、全部で8回のセッションを行うものであった。内容は、学校へダンス・アーティストを2名派遣し、8回のセッションで身体の使い方、表現方法、また作品制作を体験させるものである。

アーティストが来校するより以前に、子ども達と教師はThe Placeでの施設見学や簡単なダンス体験を行っており、ダンスに対する予備知識を持った状態でこのプロジェクトは始められている。学校での全8回のセッションを行った後は、完成した作品をThe Place内の劇場で発表する機会も与えられており、子ども達や教師、また家族にとってもダンスに対する積極的な態度を養い、ダンスへ参加するためのモチベーションも与えられることになる。

3．Genau Dance Companyへの参加

The Placeで調査・研究を実施する間、ロンドンで活動をしているアーティストMaika Klaukien氏に出会い、依頼を受けて2019年2月16-17日の2日間で3公演を行うダンス･パフォーマンスのダンサーとしてカンパニーに参加した。このパフォーマンスを実施したのがGenau Dance Companyである。

Genau Dance Companyは、1999年4名のメンバーで設立された団体で、パフォーミング・アーツと教育指導面の2面を担うカンパニーとして活動している。メンバーは対等な立場をとり、全員が出演者、教育者、振付家として活動し、また補助金の申請などを含む様々な事務作業も分担をして来た。近年では3部作であるパフォーマンスを制作しており、2017年11月には第1部となる「Ebb and Flood」を発表した。2019年2月には、第2部となる「Kreislauf」を制作・発表した。

（1）作品概要

「Kreislauf」とは、ドイツ語で「血液の循環」を意味する。人生における人との交流、出会いと別れは血液循環のように止めどなく流れ続けることと掛け合わせ、約60分の作品に仕上げた。

（2）作品リハーサル、および本番の写真資料

（写真5）作品制作過程

（写真6）劇場でのスタッフ打合せ

（写真7）パフォーマンス

（写真８）カーテンコール

（写真９）2019年２月７日の様子

（写真10）2019年２月28日の様子

４．アウトリーチの試み

現地で調査した内容を踏まえ、実践研究する場として、ダンスの様々なアウトリーチ活動を試みた。当初は現地校（幼稚園や小学校、週末や放課後にあるコミュニティスクールなど）でもワークショップの実施を構想していたが、それらは実現することが出来なかった。なぜならヨーロッパでは常にテロリズムの恐れがあり、部外者の受け入れを大変警戒されたからである。日本政府が管轄するロンドン日本人学校へ、知人を介して授業見学を希望しても、校長面会すら断られたのが事実である。よって以下のアウトリーチ・プログラムが実践出来たのは大変幸運だったと言えるだろう。

（１）保育園でのワークショップ

ダンス・パフォーマンス作品の制作に関わると同時に、同じプロジェクトの一環としてダンス教育に関するワークショップも試みた。Maika Klaukien氏の人脈を頼りに日系保育園であるリトルランドを訪ね、そこで親子を対象に2回の身体表現活動を提供した。（写真9、10）

ワークショップの内容はリトルランドの指導代表者と打ち合わせを重ね、参加する幼児の理解力や体力、保護者への対応について検討した後、決定した。2回のワークショップの内容は以下の通りである。

[2月7日ねらい] 視覚教材から想像力を働かせ、自らの身体活動へつなげる。

①幼児が理解しやすい絵本を取り上げ、読み聞かせる。
②絵本の中に出てくる表現を模倣する。
③2名のアーティスト指導者（筆者、およびKlaukien氏が担当）の模範を提示する。
④アーティストの動きを親子で再現する。

[2月28日ねらい] 物事を想像し、動きに繋げながら体力を高める。

①幼児が理解しやすい絵本を取り上げ、読み聞かせる。
②心臓について想像させ、親子で「お医者さんごっこ」をする。
③心臓のリズムであるシンコペーション音を使いながら、親子で身体表現をする。
④2名のアーティスト指導者の模範を提示する。
⑤アーティストの動きを親子で再現する。

（2）ロンドン大学･東洋アフリカ研究学院における沖縄民謡のパフォーマンス

2018年7月より参加したロンドン沖縄三線会の援助をうけながら、三線・クラリネット・ダンスのコラボレーションを実施し、在校生や現場にいた大学訪問者にパフォーマンスを提供した。（写真11）

実施日時：2019年3月6日18時～18時30分

場　　所：University of London School of Oriental and African Studies内

JCR（学生のためのコモン・ルーム）

（写真11）パフォーマンスの様子

（3）日系幼稚園での身体表現ワークショップ、およびパフォーマンス

ロンドンで二校を経営する英国前田学園で、アウトリーチ・プログラムとして身体表現のワークショップ、および沖縄民謡の生演奏とダンス・パフォーマンスを提供した。二校合わせて100名近い園児が体験・鑑賞し、英国に居ながら日本の文化に触れる機会を提供することが出来た。（写真12、13）

①身体表現ワークショップ

日時：2018年10月5日13時15分～

会場：英国前田学園 Acton幼稚園

②沖縄民謡パフォーマンス鑑賞

（写真12）身体表現ワークショップ

（写真13）英国前田学園でのアウトリーチ

日時：2019年3月14日（10時～、および11時15分～）

会場：英国前田学園 Finchley幼稚園、およびActon幼稚園

5．まとめ

以上が内外研究期間中、主に調査・実践出来た内容である。1年間という限られた期間では人脈づくりから始めて研究を進めるには時間が短く、今回は英国での調査・研究の第一歩となったという感触を得た。しかし次への確実な契機となったため、今後も継続的に英国での調査・研究を続け、豊田市周辺のダンス文化発展や日本のダンス教育の発展に寄与したいと考える。